

W202a **SPICA 搭載観測装置の検討状況概要**

松原英雄、中川貴雄 (ISAS/JAXA)、芝井広 (大阪大学)、尾中敬 (東京大学)、SPICA プリプロジェクトチーム

SPICA 搭載観測装置については、2011年5月より開始され2013年9月に最終ボード勧告をリリースして終了した国際科学/技術審査によって、搭載必須装置とオプション装置/機能が識別されたところではあった。しかしSPICA プロジェクト化を目指した2014年度の概算要求が認められなかったことから、欧州と日本の役割分担の見直しを行い、日本負担分を軽減して再挑戦することとなった。このことは、観測装置の検討において二つの大きな影響をもたらした。一つは、日本負担分をできるだけ軽減するためにも、日本が主導する搭載観測装置を最小限にしなければならないこと。もう一つは欧州側が Cosmic Vision プログラムの中の M クラスミッションに再度応募し勝ち抜いていく必要が生じたため、より一層の科学的目標の明確化・そのための観測装置の最適化が必要になったことである。

欧州では M クラスミッションの次期公募 (M4) が 2014 年 4 - 5 月にあると予想され (プロポーザル締切は 9 月) 国際的な調整時間を考えると、それまでに国内コミュニティでの合意形成が必要となっている。本講演ではこのような状況の基で、SPICA チーム内でどのような科学目標の絞り込み・観測装置の仕様についての再検討が進められているのかを報告すると共に、コミュニティとの調整状況について報告する。